

国際交流助成事業報告書

薬学部 2年次生 角山博人

1. はじめに

私は2022年8月8日～26日の3週間、国際交流基金の助成を受けて、語学学校 LSI で行われたオンラインプログラムに参加しました。今回はその体験を報告いたします。

2. LSI について

ランゲージ・スタディーズ・インターナショナル (LSI) は1965年に設立され、現在は世界7か国で16のセンターを展開している語学学校です。人と人とのつながりを大切にしているため、レッスンは少人数で行われ効果的に学ぶことができます。

3. プログラム内容

1日100分の授業で授業後は講師との質疑応答がありました。まず授業の初めに講師との雑談をしたり、生徒の質問に対して意見を出し合うなどして解決策を模索しました。その後、電子教科書を用いて、文法やさまざまなトピックについて2人ずつに別れ、意見を出し合った後、他の生徒に共有しました。また参加者は全員違う母国語であったため、発音矯正や英語を流暢に話すための練習も行いました。

4. 学んだこと

テキストの内容の一部や講師の方がシニア世代ということもあり、私にとって馴染みのない話もありました。しかしビートルズなどの歌を通して、アメリカ英語とイギリス英語の違いを学ぶことで、リスニング力が向上するだけでなくリズムや強弱など発音方法を楽しく効果的に学ぶことができました。また生徒は全員違う母国語で訛りも異なるため、自分の発音の問題点が見つけることができました。またいろいろな国の生徒がいたことで、他の国の文化や政治、娯楽についても学ぶことができました。ロシアに住み近い将来海外に留学しようと計画している人、女性という理由でビザの申請が受理されない人や世界で問題になっていることに直面している人達と話し合ったりすることで、英語だけでなく国際情勢についても学ぶことができました。

5. プログラムを終えて

新型コロナウイルスの影響で現地留学することが難しく、試験的に挑戦したオンライン留学でしたが、学習時間が限られていた上に3週間と短期であったため、完全に満足した形の留学とはなりませんでしたが。しかしZoomでの授業で発言できる機会が制限された分、1回1回の機会を大事にすることができ、より集中して取り組むことが出来ました。また、他の生徒が授業に対して積極的であったため、自分自身も能動的に授業に取り組むことができ、自主的に英語のインプットやアウトプットを行う方法を模索できたのは大きなメリットだと考えます。今まで私は、英語の教師など「第2言語を学んでいる人の英語になれている人」としか会話をしたことがありませんでした。そのため多少発音や文法が間違っていたとしても理解してもらうことができていましたが、今回私と同じネイティブではない者同士で会話することで、お互いに聞き取れなかったり、伝わらないことを相手に伝えるための方法を模索できたことが1番の成果だと考えます。3週間と短期間でしたが、授業を通して初めて学んだこともたくさんありました。今回学んだことは英語を学んでいる自分にとってプラスの出来事であり、いい成長の糧になりました。これからも学んだことを活かして、さらに英語学習に取り組んでいこうと思います。